

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2018 第2号

1. 県総体、体育祭、競技大会お疲れ様でした！

5月25日から27日まで県総体が開催されました。結果はテニス、バスケット、ハンドボール、空手とすでに4つの部が全国大会出場を決め、陸上もトラック競技で総合1位（陸上は東海大会を経てインターハイ出場が決まる）、バレーも東海大会出場と素晴らしいのですが、すごすぎて自分の中で頭の整理ができません（皆さんにとっては当たり前かもしれませんが私には経験がないので）。まずは上の大会に進んだ人たちの今後の精進と健闘を期待しています。また、その疲れをいやす暇もなく29日には体育祭。企画してくれた生徒会の皆さん、ありがとうございました。それにしても本当にみんなの全力プレーには驚かされます。大縄跳びでは学年が上がるほどとんだ回数が大きく増えるのも確実に皆さんが成長している証ですし、綱引きが単なる力勝負でなく、戦術や駆け引きも含めた知的ゲームになっているのも感心しました（さすがにリレーのスタートはもっときちんとしたほうがいいと思いますけどね）。いずれにしても部活動や学校行事が盛り上がるのはいい学校の証拠。実は「キャリア教育」においては学校行事、特別活動、部活動、あいさつ、掃除はとても大切なポイントなんです（人が社会で生きていくための基本ですからね）。これらが高いレベルで実践できている四日市商業は学校として、集団として本当に素晴らしい。3年間で生徒を成長させる組織になっていると思いますよ（「至誠」が日常の学校生活や特別活動、学校行事の中で実践されている）。それだけに逆に皆さんがもう少し意識を高めることで、もっと個人個人の資質・能力を高めることができるのではないかと感じています。

6月に入ると商業系の競技大会が立て続けに開催されました。ここでも例年のごとく頑張りが目立ち、ワープロ・ITC・珠算・電卓が予選を勝ち抜き、全国大会への進出を決めています（簿記は6月16日に予選があり、全国への進出を期待します）。東海地区は商業系の競技会のレベルが大変高く、例年岐阜や愛知が全国1、2位を占めるだけに、本番までしっかり練習して本校だけでなく、三重県代表としても上位の好成績を期待しています。

2. 新学習指導要領とあなたたちが将来生きる社会

3月30日に高校では2022年度から実施される新たな学習指導要領が文部科学省から告示されました。学習指導要領とは「どのような方針で今後教育を行うか」という方向性、「それに沿ってどのような授業を実践するか」という内容などが示されたものですが、そこには改訂の基本的な考え方として次のように掲載されています。

- ① 子供たちが未来社会を切り拓（ひら）くための資質・能力を確実に育成する。
- ② 子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。
- ③ 知識の理解の質を高め「確かな学力」を育成する（この場合、知識を単なる暗記だけにとどめず生きて働く知識とし、「確かな学力」とは知識・技能に加えて思考力、判断力、表現力等の知識を活用する能力、学びに向かう力・人間性の3つの柱のことを言う）。

どうですか。前回の「至誠」で提示した「キャリア教育」の定義に沿ったものになっているのがわかりますか。「子どもと社会を結びつける」「社会で生きる力(資質・能力)を身に着ける」これからの教育はこの方向に変えていくことを国が示しているんですね。当然、これに沿って授業も変わってきます。例えば「日本史」「世界史」というくくりが「歴史総合」として新設されたり、「公民」では「現代社会」ではなく、「公共」という科目になったりします。「探究活動」が重視されるようになり、「総合的な学習の時間」は「総合的な探求の時間」になります。商業の専門科目でも「ビジネス実務」は「ビジネスコミュニケーション」に再編成され、「観光とビジネス」が新設されたりします。

「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を実現するための授業改善も一つの柱です。すでに皆さんの授業においてもペアワーク、グループワークやプレゼンを重視した授業も入ってきているでしょう。小学校から英語やプログラミングを必修にしたり、国語の科目を「言語文化」「論理国語」「国語表現」「古典探究」と再編したりするのも同じ流れの中でのことです。つまり、子どもたちが生きる未来社会を予測し、その中で必要な資質・能力を育成するための教育の改革になっているのです。そして、その流れはすでに小中高の教育に入ってきています。

では皆さんが社会人として生きる時代の日本はどのようになっているのでしょうか。まず言えるのは現在よりも高齢化・少子化が進んでいるであろうということです。情報化も進み、AIを抜きにしては語れない社会が到来するでしょう。グローバル化も避けて通れません。よく例に出されるのは、

- ・2000年生まれの子供（現在の皆さんくらいの年齢です）の11・3%は22世紀まで生きる
- ・2100年は世界の人口は100億、日本は現在（1億2000万）の半分以下になる
- ・現在の小学生の65%はこれまで存在しなかった職業に就く
- ・情報化の発展でスキルや知識の陳腐化は数年サイクル（世界で5000万ユーザーを獲得するのにラジオは38年、テレビは13年、対してフェイスブックは1年、ツイッターに至ってはわずか9か月でそこまで普及）＝知識やスキルを覚えるだけではだめ、不断の更新が必要

このような時代に必要な資質・能力とは、

- ・情報（知識）を収集するだけでなくそれをつなぎまとめる力
- ・未知の人、価値観の違う人とコミュニケーションをとって協力して仕事をする力
- ・自分で考え(特に論理的思考力)行動する力
- ・自分の考えを相手に伝え説得する力
- ・自分で（あるいは人と協力して）問題を発見し解決する力

などになってきます。今回の学習指導要領の改訂はこのような未来社会で生きる資質・能力をつけるために本格的にかじを切ったものだといえます。

では、そんな時代を迎えるにあたって、皆さんはどのように対応していけばいいのか。すごく難しいことを要求しているようですが、実は小さな日常の積み重ねが大きな力を生みます。まず、日ごろから「気づき」を経験していくこと。そのためには細かな「観察」する習慣をつけてください。次に日ごろからできるだけいろいろな人と対話すること（会話じゃないよ。お互いに相手の話を聞いて理解し、言葉で話すこと）。特に自分の言葉で話すことは能力を高めます。人と話すのが苦手な人は本を読んで自分の考えをまとめるのもいいですね。三つ目に考えながら授業を受けてみてください。なぜこれらが大切なのか。次号で回答を出すので、それまで実践して考えてみてね。

(6月8日)